

# マンションにおける全員参加型の組織づくり

(団体名称:ブラウシア自主防災会)

## 活動内容

マンションの住民が自分ごととして防災力を向上できるよう、全員参加型の組織づくりを行っています。

### 【取り組み内容】

#### (1)人材育成

・マンションの各階(部屋数:10~25)に、安全確認や本部との情報伝達等を担う「班リーダー」を2~3名選出。「班リーダー」を毎年経験のない者に順次交代することで、8年で全部屋の住人に概ね1度は班リーダーを経験してもらい、マンション全体での防災体制への参加・人材育成を図っています。

#### (2)体制

・各階のパイプスペース内に「ファーストミッションボックス」を常設しておくことで、誰でも安否確認等の初動対応を迷わず迅速に行える体制を構築しています。  
・各家庭での平常時からの備え(安否確認手段や備蓄品、防災関連情報の入手手段)と、各家庭での初動(自助)からマンションの防災体制(班や災害対策本部の仕組み=共助)などを簡潔にまとめた「防災のしおり」を作成し、全戸配布しています。

#### (3)防災知識の向上

・防災訓練の際、電気自動車からの給電やAED訓練、防災講話(及びグッズ販売)などをスタンプラリー形式で実施することで、各自在宅の備えについても知識取得する場を設けています。



【各階の安全確認の様子】

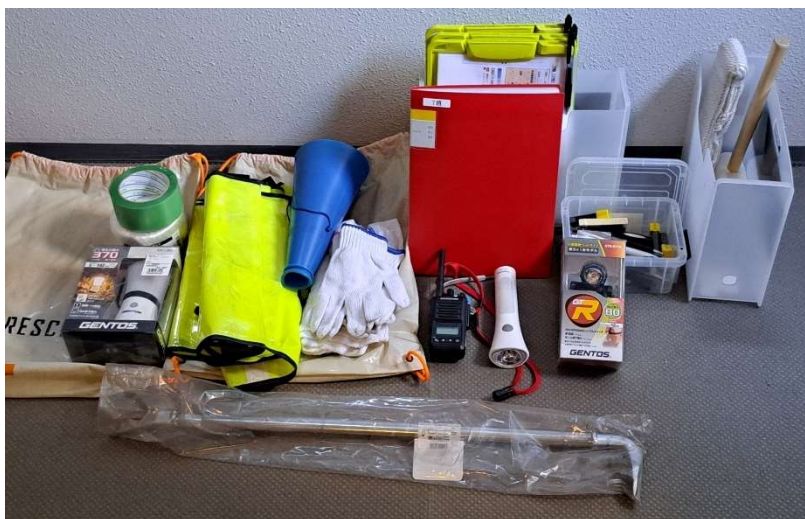


【ファーストミッションボックスの設置】

## 💡 FMB(ファーストミッションボックス)とは？

誰でも対応できるシンプルな仕組みを目指し、発災時にまず初めに開封し、初動対応で使用する指示書や資器材の入った、共助の為のボックスです。

扉を開ければ、具体的な指示書と資器材が揃っており、リーダー不在でも初動対応を取ることができます。各階のパイプスペース内に備え付けられており、少人数で動ける体制づくりのベースとなっています。



### <収納物リスト>

ファイル(指示書・フロア平面図等)	軍手・雑巾(ウエス)・養生テープ
クリップボード(安否確認集計用)	ビニール紐・麻紐
文房具(ボールペン・マジック・付箋紙等)	ハンマー(ゴム製ヘッド)
懐中電灯・ランタン・ヘッドランプ	ラジオペンチ・ニッパー・カッター
予備電池(互換性を考慮し単三で統一)	ボール
トランシーバー(年に数回充電状況確認)	ビブス・メガホン

### ポイント

- マンションの各部屋の居住者全員が班リーダーを経験することで、発災時に動ける人材の育成を組織的に図っている点
- 発災時に初動対応すべき事項を「ファーストミッションボックス」にまとめ、所定の位置に設置することで、誰でも迷わず迅速な行動が可能な点

# 訓練参加への取り組み

(団体名称:花見川区内の自主防災会)

## 活動内容

地域で実施する防災訓練において、住民への周知や実施後の報告を丁寧に行い、地域の防災意識の向上に努めています。

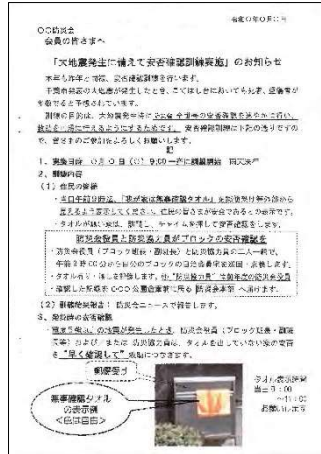
### 【取り組み内容】

- 訓練の実施にあたり、周知を徹底することで、地区内の自治会員の70%近くが訓練に参加(R6 67% → R7 72%非自治会員含む)
- 自治会館や掲示板などの見られやすい場所に訓練のポスター(A3)を掲示
- 自治会内の各世帯に訓練実施のお知らせを配布
- 自治会に所属していない世帯にも参加協力のお知らせを配布
- 各お知らせ文に訓練の目的を記載することで、何の場合に必要とされるものか周知
- 訓練終了後、各世帯に訓練の総括と参加率についてまとめた訓練報告を配布

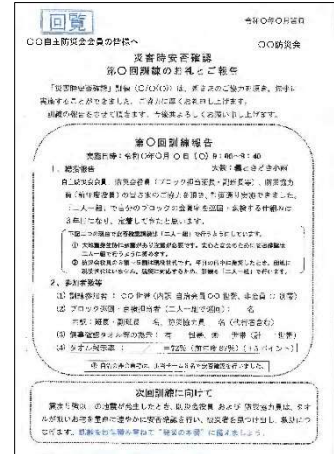
掲示ポスター



お知らせ



訓練のお礼と報告



## ポイント

- 周知や報告を丁寧に行うことで住民の参加意欲が高まり、災害時の役割理解と主体的行動が期待されます。
- 手続きや準備の事例提示により、各団体の負担が軽減され、訓練の積極的な実施が期待されます。

# 消火栓を使用した消火訓練

(団体名称:宮園防災会)

## 活動内容

大きな災害等で同時多発的に火災が発生した際、様々な事由で消防車の到着が遅れたり、到着が見込めないという状況が発生した事態に備え、消防署の協力を得て、地域の公園を会場として消火栓を使用した消火訓練を行っています。

### 【取り組み内容】

消防署職員指導のもと、消火栓の位置の確認、消火栓の開け方、スタンドパイプ・放水ホースの接続を行い、実際に放水を行っています。



<消火栓の開け方を確認>



<スタンドパイプ・放水ホースを接続>



<放水を実施>

## ポイント

- 大規模な災害時には、同時多発的に火災が発生する恐れがあります。消防署の協力のもとで訓練を実施することで、消防車が来れないような場合であっても、地域住民による、消火活動を行えるようになります。

(千葉県注記)消火栓・排水栓を使用した初期消火の方法や、スタンドパイプ貸出事業については、千葉県ホームページ(<https://www.city.chiba.jp/sogoseisaku/kikikanri/bosai/syoukasen-haisuisen.html>)をご確認ください。

## 合同防災訓練の実施

(団体名称:山王中学校区(37 地区)加盟の 11 自治会)

### 活動内容

協力し合いながら減災や防災に取り組めるよう、地域の方が主体となり、毎年合同訓練を実施しています。

#### 【取り組み内容】

11 もの自治会が参加し、地域の公園で合同で防災訓練を実施しています。

水消火器を用いた消火訓練や放水ホースを使用した一斉消火訓練、AED 救護訓練や煙体験など、毎年、多くの方が参加されています。



<水消火器を使用した消火訓練>



<一斉消火訓練>



<AED 救護訓練>



<煙体験ハウス>

### ポイント

- 地区単位で多数の自治会が合同で訓練を行うことで、隣接地域での住民同士の交流が生まれることにより意見交換の場ができ、地域全体の防災力が向上するとともに、災害時の連携力を養うことにもつながります。

# 集合住宅での防災訓練

(団体名称:千草台団地自治会)

## 活動内容

集合住宅における災害時の特徴を踏まえ、毎年防災訓練を実施しています。

### 【取り組み内容】

災害時に備え、救命救急訓練や煙体験訓練といった基本的な訓練に加え、集合住宅で災害が起きた場合を想定し、部屋と部屋の境の戸境壁を破る訓練を実施しています。



<救命救急訓練>



<煙体験訓練>



<戸境壁を破る訓練>

## ポイント

- 基本的な訓練に加え、災害時に集合住宅で想定される状況を、訓練で実施することで、災害時に困ることなく、より素早く行動に移すことができます。

## 防災行政無線を使用した避難の呼びかけ

(団体名称:いずみ台ローズタウン自治会自主防災委員会(北・南)防災区)

### 活動内容

災害発生時、効率的に地域の方へ避難の呼びかけができるよう自主防災組織において防災行政無線を使用し、呼びかけの届く範囲や使用方法の確認を行っています。

### 【取り組み内容】

年に1回地域の公園に設置されている防災行政無線を使用した防災訓練を実施しており、役員を含む幅広い委員が使用できるようマニュアルを確認しながら、実際に地域の方へ訓練放送を流しています。



### ポイント

- 毎年訓練で使用し、地域の方たちにも防災行政無線の存在を認識してもらっています。実際に火災が発生した際も、防災行政無線を使用して避難と注意喚起を呼びかけ、数名の方が避難するなど、実災害においても活用することができました。

### その他

スピーカーから少し離れる(約1キロ)と聞こえづらくなりますが、ハンドマイクや車載スピーカーよりも一度に広範囲へ声かけをすることが可能なため、場所や条件が合えば効率的に地域住民に避難誘導と情報共有ができます。

(千葉県注記)防災行政無線屋外放送設備の町内自治会等による使用については、千葉県ホームページ(<https://www.city.chiba.jp/sogoseisaku/kikikanri/bosai/okugaihousetubi.html>)をご確認ください。

# 防災訓練参加率 85.7%(2025年度)

## みんなでつくる防災意識の醸成について

(団体名称:御成台三丁目自治会・自主防災会)

### 活動内容

当組織は自治会に所属していますが、毎年メンバーが入れ替わる自治会活動とは異なり、有志による継続的なボランティア活動を基本としています。

毎年秋には、自治会と共催で「無事ですカード」掲示を含む防災訓練を実施しており、高い参加率を維持しています。

2025年度は287世帯、御成台3丁目の85.7%の世帯の方々にご参加いただきました。



### 【取り組み内容】

- ・地域全体の防災意識を高めるため、年3回の「防災だより」を発行し、防災訓練の周知や最新の防災情報を提供することで、防災意識の醸成に努めています。
- ・近年は近隣の東京情報大学と連携し、学生ボランティアにも防災訓練等へ参加してもらうことで、自主防災組織に不足しがちな若い力を取り入れています。



### ポイント

●現在の形の自主防災会が発足する前から、自治会役員による、防災訓練は続いていましたが、役員が毎年変わるため、定番のメニューになることが多く、関心が薄れやすくなっていました。

東日本大震災後、有志の固定メンバーによる自主防災会が発足したことにより、毎年少しずつ新しいメニューを取り入れ、継続して防災訓練を実施することで、自治会員の防災訓練参加の意識が定着してきました。

### その他

町内で営業している13の事業者のうち、11事業者と懇談の機会を持つことができ、災害時の協力を申し出てくださる事業者にも出会えました。

その後、防災だよりの配布や防災訓練への招待を行い、2025年の防災訓練には2事業者の職員が見学に訪れました。

今後も地域の共助体制づくりを進めていきたいと考えています。

# 地域の全員が AED を使用できる体制づくりを目指して

(団体名称:御成台三丁目自治会・自主防災会)

## 活動内容

災害時に起こりうるさまざまな事態を想定し、自治会で AED を設置するとともに、防災訓練や講習会を通じて、地域住民が日頃から AED を使用できるよう備えています。

### 【取り組み内容】

消防署と連携した防災訓練の中で、ほぼ毎年 AED の講習を実施し、いざという時に戸惑うことなく使用できるよう、誰もが扱える体制づくりに取り組んでいます。



## ポイント

- 秋の防災訓練時に AED 訓練を行っていることに加え、自治会の防犯パトロールに合わせて、役員と班長が AED の作動確認(故障の有無)を実施しています。  
これにより、地域内で AED の設置場所と使い方が広く共有され、有事の際にも戸惑うことなく使用できる体制づくりが進んでいます。

## その他

緊急連絡先や通院先、服薬状況などを記載できる「わが家の防災・救急メモ」の作成と、家庭内の決まった場所への保管を呼びかけています。容器と記入用紙を全戸に配布し、災害時などに家の中で倒れた場合でも、駆け付けた救急隊が必要な情報を迅速に把握できるよう備えています。



# 地域防災力の向上

(団体名称:あすみが丘南自治会防災部)

## 活動内容

大規模な災害発生に備え、自助・共助・公助の役割分担と連携し、地域内の住民が主体的に避難所の開設及び運営を円滑に行うために、様々な訓練を実施しています。

### 【取り組み内容】

- ・6月に消防署、防災普及公社など協力の基、防火・防災及び避難訓練を行い、地震体験車119番通報、初期消火、煙体験、救護訓練などを体験し、もしもの時に備えています。



- ・11月には大椎小避難所運営委員会により避難所開設訓練を行っています。避難所の区割り、マンホールトイレの設置、非常用井戸ポンプの稼働など訓練を通して、いざという時に慌てず迅速に避難所を開設する体制づくりを目指しています。
- ・今後は、炊き出し訓練などの実施も計画しています。

## ポイント

- 住民の方に様々な訓練に参加して頂き、当自治会で目指す自助・共助・公助の協力及び助け合い更に防災意識が深まってくと期待しています。

## その他

訓練を通して住民や避難所運営委員会のメンバーから様々な意見があった中で、安否確認の方法や、避難所運営マニュアル(大椎小学校避難所)の見直しなどについてこれからの検討課題として取り組んでいきたいと思ひます。

# 災害ボランティアの現場経験から学ぶ在宅避難 (団体名称:おゆみ野四季彩の杜防災会)

## 活動内容

全国の被災地で長年支援活動を続ける森下良治氏を招き、能登半島地震・東日本大震災などの現場経験に基づき、「在宅避難」「共助」について学びました。

報道では見えにくい被災地の実情を知り、地域としてどのように備えるべきかを確認しました。

また、防災会が保有する災害用簡易トイレの組み立て実演を行い、災害時の必須設備を体験しました。

## 【取り組み内容】

- ・ 炊き出しや自宅避難者の孤立など、現場の実例を共有し、「温かい食事」と「集まれる場」の重要性を確認。
- ・ 倒壊家屋での貴重品搜索事例を通じ、「残してほしい物」を平時から家族で整理し、取り出しやすい場所にまとめる必要性を認識。
- ・ 豪雨による内水氾濫や床下断熱材の腐敗など、現代住宅特有の浸水リスクを学び、地域としての浸水想定確認につなげた。
- ・ 倒壊家屋救助の約 8 割が近隣住民であることから、バールや発電機・蓄電池などの共助ツールの備蓄・保管場所の共有について意見交換。
- ・ TKB48(トイレ・キッチン・ベッドを 48 時間以内に確保)を理解し、行政だけでなく、地域での避難所機能づくり・役割分担の必要性を学んだ。

## 講演風景



## 簡易トイレ、携帯トイレの設営



## ポイント

- 現場での具体例を通じ、「この地域でも起こりうる災害」として自分事化できました。
- 公的支援が届くまでの 72 時間を生き延びるには、近隣同士の共助と、道具・電源・炊き出し用品などの事前準備が極めて重要であることを再確認しました。

## その他

参加者からは「在宅避難の現実を初めて実感した」「道具リストや物資仮置き場を地域で決めたい」といった声上がり、今後の防災計画・避難所運営マニュアルの改善に活かしていく予定です。

# 令和 7 年度防火防災訓練

(団体名称:おゆみ野 4 丁目自治会(防災会))

## 活動内容

近い将来に予想されている大震災や風水害等、災害に対してどのような準備をし、どのような対応を行えばよいかを訓練を通じて考え、災害の備えとすることを目的としています。

### 【取り組み内容】

#### ●防災訓練(安否確認訓練)

- ・町内の防災意識の確認のため、町会員に配布済みの「無事ですタオル」の掲示確認
- ・メガフォンによる町内呼びかけ
- ・本部にて、リヤカー・発電機・防災備品の確認



リヤカーの確認



無事ですタオルの掲示



発電機の動作確認



本部の設置



防災備品の確認

#### ●オータムフェスティバル(防火訓練・救出救護訓練等)

緑消防署の協力のもと、消火訓練や救急救命訓練を実施



## ポイント

- 防災訓練時に、非常用発電機のエンジンの始動点検は今までしてきましたが、今回は電流が来ているか確認したところ、送電経路に不具合があり電気を供給できない事が解りました。エンジンは始動しても電気がこなければ役に立ちません。他の備品も実際に使って確認することが重要であると再確認しました。

## その他

防災訓練(安否確認訓練)での安全確認率は82%であり、18%が「無事ですタオル」掲示の確認ができなかったため、未確認の世帯の安全確認の方法を確立していきます。

また非町内会員の町内会への参加も勧めていく予定です。